

中津孝司編著「ドル没落」創成社 2007年11月25日刊を読む

日本の安全保障を考える

1. 日本経済の強味は高い技術力と豊富な経験にある。地道な努力が継続されて開化した。一朝一夕に成し遂げられる技術力ではない。日本が世界を支配できる要素は技術しかない。だがその技術力は外国勢が模倣できない水準だ。有効活用すれば、良い意味で日本が君臨できる。不断なる努力を永久に継続できるのであれば、日本の技術力を媒介にした世界支配は成功するであろう。その標的が新興国であることは言うまでもない。米国追随を打破できる日が必ず到来する。米国ならびに米ドルの没落は日本にとっての悪夢だ。しかし、その日を迎えてから日本が慌てても後の祭り。現段階からリスク管理しておいて損はない。その技術開発力で有望分野がエネルギー資源であることは誰もが認めるであろう。P15～16
2. 米国が弱体化するときを見据えて、エネルギー・食料・軍事上の安全保障を日本独自に強化しておく必要に迫られている。要するに、日本の政治的自立が希求されているのだ。誰も日本を防衛してくれない。日本自ら取り組むべき課題なのだ。米国没落は日本にとって最大の警告となる。この際、本気で日本が北大西洋条約機構(NATO)に加盟することを検討したほうが良いだろう。それが無理ならば、北朝鮮問題の検討に取り組んできたいいわゆる 6 か国協議を発展的に解消して、集团的安全保障の枠組に改組することも視野に入れた方がよいであろう。決断の時が近づいている。P19～20
3. 日本はやがて訪れる多極化地域世界の誕生を見据えて、国家戦略を根底から見直す作業に着手すべきである。前提条件は自立自強。米国による核の傘に安住しない国防政策を打ち出す必要がある。そして、日本の周辺諸国と地域国家群を結成する道筋を模索することだ。東アジアには異質な国家が複数存在する。当面はこうした国家が滅亡する日に備えることだろう。その日まで日米同盟は有効だ。だが、異質な国家が消滅したとき、日本にとって新たな時代が始まる。日本円は東アジア地域通貨に変換されているだろう。東アジアから、日本円も人民元もウォンも台湾ドルも姿を消し新しい共通通貨に統合されているだろう。日本、東アジア、世界の新たな時代の幕が開く。P244

<コメント>

日本の NATO との協力関係の大幅促進は全面的に賛成。

— 2009年1月2日記 —